UCHIDA

T04284500003B

取扱説明書

紙折機　　Ｆ－４３０

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよく
お読みください。また、いつでもお読みになれる
よう保管場所を決めて、大切に保管してください。

株式会社 内田洋行

●ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
●ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、危害や損害を未然に防止するためのものです。
●[安全上の注意]に使用されている絵表示の例。

△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。（左図の場合は高温注意）

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。（左図の場合は分解禁止）

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）

安全上の注意

⚠ 警　告	
	アース接続してください。 漏電した場合、感電を防止します。
	交流１００Ｖ周波数５０／６０Ｈｚで使用してください。電圧が高すぎたり低すぎたりする場合、火災・故障の恐れがあります。周波数が範囲外の場合、火災・故障の恐れがあります。
	この機器の上に、物をのせないでください。機器内部に水･異物が入った場合火災･漏電の恐れがあります。
	電源コードの扱いには十分注意してください。 傷・破損・加工をしないでください。火災・感電の恐れがあります。 重量物をのせないでください。火災・感電の恐れがあります。 プラグやコードを無理に曲げないでください。火災・感電の恐れがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の恐れがあります。
	この機器のカバーは外さないでください。感電やケガの恐れがあります。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の恐れがあります。
	発熱していたり煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のときは、すぐに電源スイッチを切り、販売店までご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電のおそれがあります。
	電源コードが熱を持ったり、異臭がするなど異常があったらすぐに電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントからぬいてください。そして販売店にご相談ください。
	異物が機器に入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。
	雷が近づいてきたら、落雷による火災・故障を防ぐためコンセントを抜いてください。

⚠ 注　意	
	髪の毛・ネクタイ・ネックレスなどを駆動部にたらさないでください。けがの原因になります。
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。
	湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因になります。
	電源プラグを抜くときは､必ずプラグを持って抜いてください｡電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	本機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になります。
	連休等で、本機を使用にならない時は安全のため必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

はじめに

ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みください。
この「取扱説明書」は、必要な時にいつでもお読みになれるように、保管場所を決めて大切に保管してください。
この製品は改良のために、仕様を変更する場合があります。このため、同一製品においても「取扱説明書」の記載内容が異なる場合がありますので、製品ごとの「取扱説明書」を混同して使用しないでください。
本書では、操作パネルのカバーを省略してあります。

目次

１．　設置前の注意事項

１．１　設置場所の確認 …… 5
１．２　搬入時の注意 …… 5
１．３　付属品の種類・数量の確認 …… 6

２．　製品各部の名称

２．１　外観 …… 7
２．２　操作パネルシート部 …… 8

３．　特に注意していただきたいこと

３．１　用語の定義
３．１．１　マーク解説 …… 9
３．１．２　用語・折形解説 …… 9
３．２　特徴および使用目的 …… 9
３．３　使用しないとき …… 9
３．４　使用上の注意 …… 9

４．　使用前の準備

４．１　付属品を取付ける …… １０

５．　使用方法

５．１　規格用紙（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５等）の定形折り …… １２
５．２　規格外用紙（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５等以外）
の折り位置セットの方法 …… １４

５．３　クロス折り …… １５
５．４　調整
５．４．１　斜行調整 …… １６
５．４．２　微調整 …… １６
５．５　記憶
５．５．１　記憶 …… １７
５．５．２　記憶解除 …… １９
５．５．３　全記憶解除 …… １９
５．６　カウンタ …… １９
５．７　速度調整 …… ２０
５．８　点検ランプ …… ２０

６．　保守・点検・消耗品
６．１　点検・お手入れ時の注意事項 …… ２１
６．２　日常のお手入れ …… ２１
６．３　消耗品について …… ２１
６．４　折りローラーの脱着・
給紙・排紙フォトセンサーの清掃について …… ２２
６．５　用紙セパレーター・給紙ゴムローラー・
ブレーキゴムの脱着について …… ２３

７．　トラブル時の処置
７．１　トラブルの内容と処置 …… ２４
７．２　故障の場合 …… ２５

８．　移設または廃棄するとき
８．１　移設
８．１．１　旧設置場所からの撤去作業 …… ２６
８．１．２　運搬 …… ２６
８．１．３　移設先での設置 …… ２６
８．２　廃棄 …… ２６

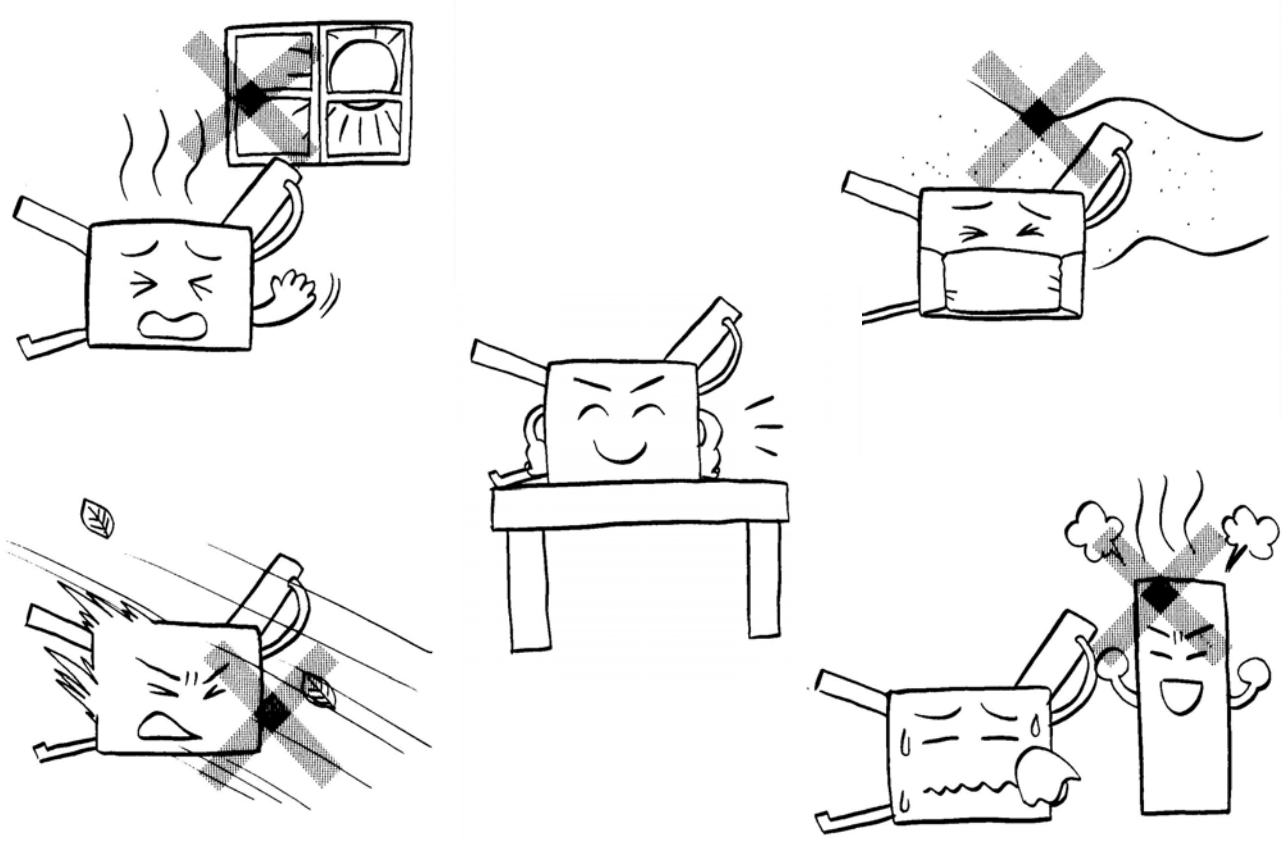
９．　製品仕様
９．１　仕様 …… ２７
９．２　オプションについて …… ２８

１．　設置前の注意事項

１．１　設置場所の確認

設置する際には、以下の条件を満たしてください。

・直射日光の当たらない場所であること。
・湿気やほこりの少ない場所であること。
・風が直接当たらない場所であること。
・熱を発生する機器が近くにないこと。
・安定した水平な場所で使用すること。



１．２　搬入時の注意

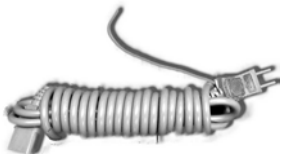
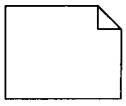
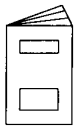
・衝撃や激しい振動が製品本体に加わらないように、ていねいに取り扱ってください。
・保護手袋をし、２人で底面４隅をしっかり持って運搬してください。

１．３　付属品の種類・数量の確認

開梱したら、付属品の確認をしてください。

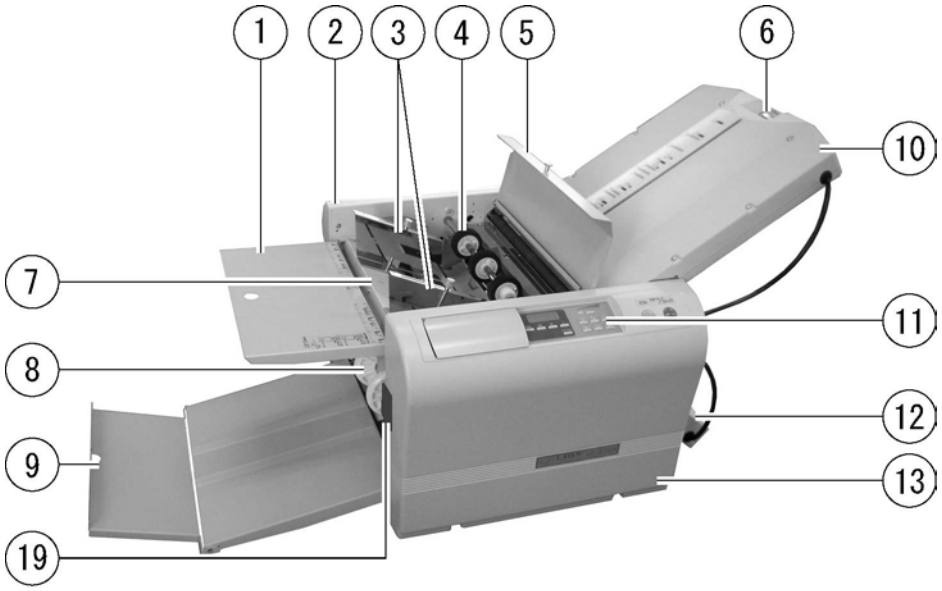
万一不足していたら、すぐに販売店に連絡してください。

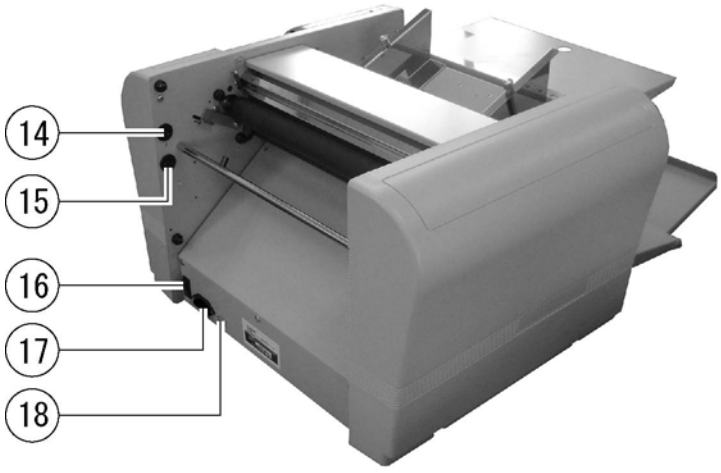
また、保証書の記入をお願いします。

付属品	個数	図
テーブル１	1	
テーブル２	1	
電源コード 注意：形状は異なる場合があります	1	
補助用紙ガイド右・左	各１	
機械カバー	1	
取扱説明書	1	
簡易マニュアル	1	

２．　製品各部の名称

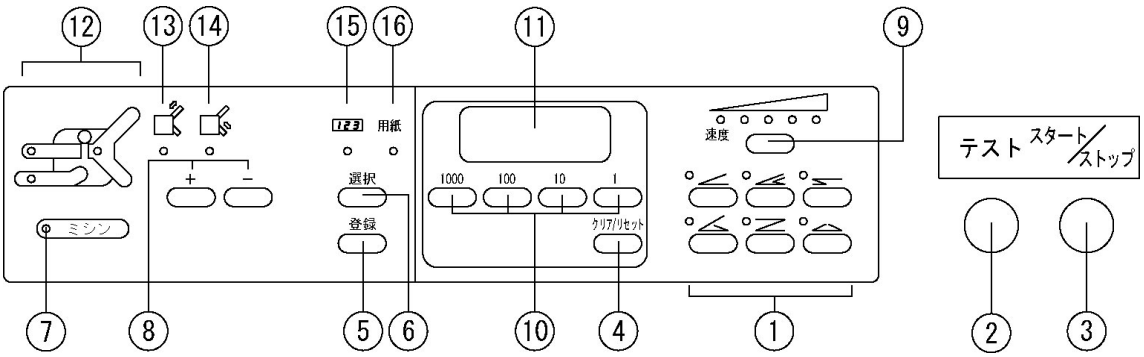
２．１　外観





番号	名　称	はたらき	番号	名　称	はたらき
①	補助テーブル	大きい用紙を支える	⑪	操作パネル	枚数設定など
②	左化粧カバー	メカ部の保護	⑫	テーブル２	2 回目の折り
③	用紙ガイド	給紙時の曲りを防止	⑬	右化粧カバー	メカ部の保護
④	給紙ローラー	用紙を１枚だけ給紙	⑭	テーブル１ソケット	テーブル 1 の制御ケーブルをつなぐ
⑤	安全カバー	開けると動作が停止	⑮	テーブル２ソケット	テーブル 2 の制御ケーブルをつなぐ
⑥	ストッパー微調整ツマミ	折りずれを修正	⑯	電源スイッチ	電源の入・切
⑦	給紙テーブル	用紙を載せる	⑰	インレット	電源コードをつなぐ
⑧	排紙ローラー	折った用紙を整えて排出	⑱	ブレーカ	過電流保護
⑨	排紙テーブル	折った用紙を蓄える	⑲	給紙テーブルレバー	給紙テーブルを上下させる
⑩	テーブル１	１回目の折り			

２．２　操作パネルシート部



番号	名称	はたらき
①	折形キー	折形を入力・６種類の特殊折りを記憶
②	テストキー	テスト折りを２枚
③	スタート/ストップキー	スタートとストップ
④	クリア/リセットキー	カウンタをクリア・エラーをリセット
⑤	登録キー	調整後の折り位置を登録
⑥	選択キー	カウンタ表示・テーブル１ストッパーピンの位置・ テーブル２ストッパーピンの位置・排紙ローラーの位置・ 用紙長さ
⑦	ミシンモードランプ	オプションのミシンユニット装着時点灯
⑧	＋/－キー	テーブル１、テーブル２ストッパー位置調整・ 排紙ローラー位置調整
⑨	速度調整キー	速度を調整
⑩	数字キー	減算カウンタ時枚数・定形外用紙長さ入力
⑪	カウンタ	枚数・テーブル１，２ストッパーピンの位置・ 用紙寸法を表示
⑫	点検ランプ	用紙がなくなった時、給紙トラブル発生箇所を表示
⑬	ﾃｰﾌﾞﾙ１ｽﾄｯﾊﾟｰ移動ﾓｰﾄﾞﾗﾝﾌﾟ	テーブル１ストッパー位置調整時点灯
⑭	ﾃｰﾌﾞﾙ２ｽﾄｯﾊﾟｰ移動ﾓｰﾄﾞﾗﾝﾌﾟ	テーブル２ストッパー位置調整時点灯
⑮	カウンタ入力モードランプ	枚数カウンタ時点灯
⑯	用紙サイズ入力モードランプ	用紙サイズ表示時点灯

３．　特に注意していただきたいこと

３．１　用語の定義

３．１．１　マーク解説

注意！　　注意していただきたいことです。
ポイント！　　知っていると便利なことです。

３．１．２　用語・折形解説

名　称	解　説
ジャム	用紙が機械内部で詰まること
重送	２枚以上重ねて給紙すること
スリップ	用紙が送り込まれないこと
原位置	テーブル１・２のストッパーがいちばん左側にあること （ストッパー微調整ツマミを右にみたとき）
さばく	用紙同士がはりついている状態をはがすこと

図						
折　形	２つ折り	４つ折り	片袖折り	内３つ折り	外３つ折り	観音折り

図の着色部は、給紙テーブルに用紙を下向きにセットしたときに折られた状態です。

３．２　特徴および使用目的

・高速で用紙を折ります。
・用紙サイズ検知・ストッパープレート移動は自動です。
・別売りの手差しユニットを装着することで手差し給紙により同時に数枚（３枚まで）折れます。

３．３　使用しないとき

・電源プラグをコンセントから抜いてください。
・機械カバーを掛けてください。

３．４　使用上の注意

・安全カバーの開閉はツマミを持ってください。用紙ガイドにはさまれる恐れがあります。
・特に重要な書類は事前に折りテストをし、折り位置の確認をしてください。
・理由を問わず、用紙の折ずれ・破損の補償はご容赦ください。

４．　使用前の準備

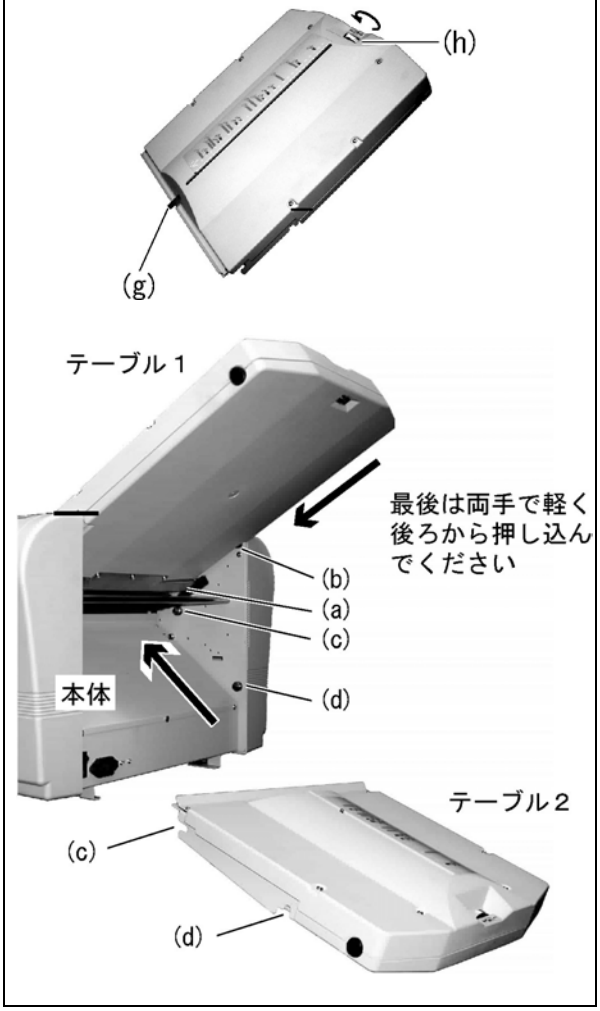
４．１　付属品を取付ける

（1）電源コードをインレットに差し込みます。

（2）テーブル１・２を本体に取付けます。

・テーブル２の取付け方法
テーブル２の前切欠部（ｃ）を本体のピン（ｃ）に差し込んでから、テーブル２の後切欠部（ｄ）を本体のピン（ｄ）に落とし込みます。

・テーブル１の取付け方法
テーブル１の前切欠部を本体のピン（ａ）に差し込んでから、後切欠部をピン（ｂ）に落とし込みます。

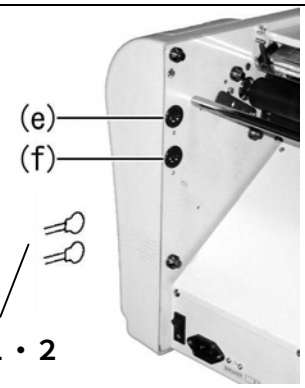


注意！

・テーブル１・２を取付けるときは、矢印のような角度にして取付けてください。
・テーブル１を取付けるとき（ｇ）押し板が飛び出していたら（ｈ）ストッパー微調整ツマミをまわして引っ込めてください。
・テーブル１の黒ラインが本体サイドカバーの面に丁度合うまで押し込んでください。
・テーブル１・２の取付けが正しくされていないと正常な折り方ができないことがあります。

（3）テーブル１プラグをコネクタ（e)、テーブル２プラグをコネクタ（f）に差し込みます。

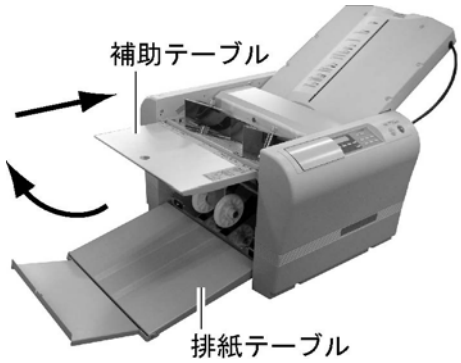
注意！
コネクタには方向性があります。
無理に差し込むと故障の原因になります。



テーブル１・２
コネクタ

⚠ 注　意	
❗	テーブル１・２が正しくセットされているか確認してください。 外れてけがの原因になります。

（4）排紙テーブルを引き出し、補助テーブルを持ち上げるようにしてセットします。



（5）電源コードをコンセントに差し込みます。

注意！
必ずほどいて使用してください。
付属の電源コード以外は使用しないでください。
電源コードのアース線は必ず先端の絶縁被覆をむいて接地（アース）してください。

電源コードのプラグ形状は写真と異なる場合があります。

⚠ 警　告	
🚫	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の恐れがあります。
	電源コードのアース線は電源コンセントに挿入または接触させないでください。火災・感電の原因になります。

（6）電源スイッチをオンにすると、テーブル１・２のストッパーが原点に移動します。

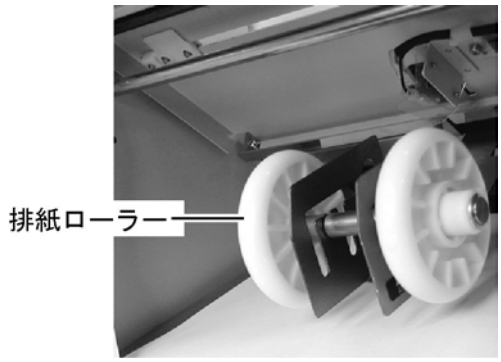
５．　使用方法

５．１　規格用紙（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５等）の定形折り

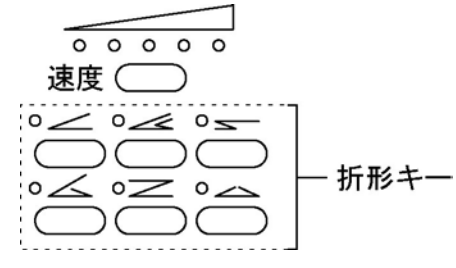
※電源オンの直後の状態から説明します。
（１）給紙テーブルレバーを上げて、給紙テーブルを下げます。
（２）規格サイズの用紙をセットします。
（３）用紙ガイドネジを緩めて用紙ガイドを用紙の幅に合わせます。
（４）用紙をきれいに揃えてから給紙テーブルにのせます。
（５）用紙ガイドを用紙に密着させて、用紙ガイドネジを締めます。
（６）給紙テーブルレバーを下げます。

注意！
印刷直後の用紙はジャム・重送・スリップ・用紙のシワの原因になりますので、必ず乾いてから使用してください。

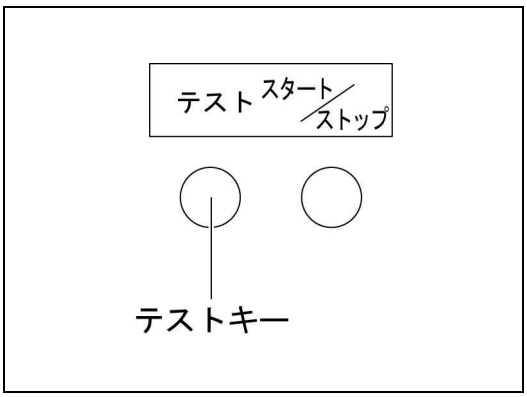
（７）排紙ローラーセットを用紙サイズに合った排紙ローラーの位置（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５）に移動します。
用紙サイズと排紙ローラーの位置関係は「ローラー位置表示シール」を参考にしますが、もしも排紙がスムーズにいかない場合は、後側の位置にセットしてください。
排紙がスムーズにいかない場合、折り速度が遅くなります。



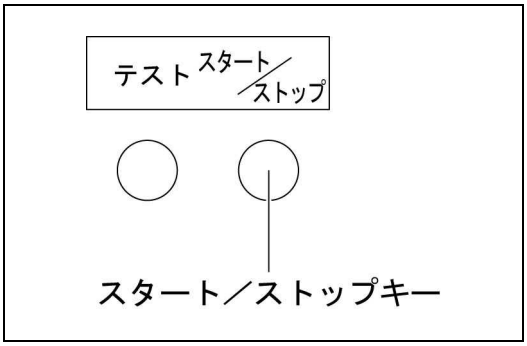
（５）折形を指定します。
６種類（２つ折り・４つ折り・片袖折り・内３つ折り・外３つ折り・観音折り）の折形から指定します。希望の折形キーを押してください。



（6）試し折りをします。
テストキーを押すと、２枚折ります。
（カウンタは動きません）
２枚目の折った用紙で仕上がりを確認します。
折りずれが発生する原因
・ローラーの汚れ
・用紙ガイドのセットが曲がって固定されている又は用紙密着されていない
・給紙テーブルが曲がっている
・用紙の裁断が曲がっている
折りずれを修正する場合
→１６ページ**「５．４　調整」**参照



（7）連続折りをします。
スタート/ストップキーを押すと、連続して用紙を折ります。動作中に、もう一度押すと停止します。カウンタは加算していきます。
クリアキーを押すとカウンタは「0」に戻ります。
希望枚数のみ折りたい場合
→１９ページ**「５．６　カウンタ」**参照



５．２　規格外用紙（Ａ３・Ａ４・Ｂ４・Ｂ５等以外）の折り位置セットの方法

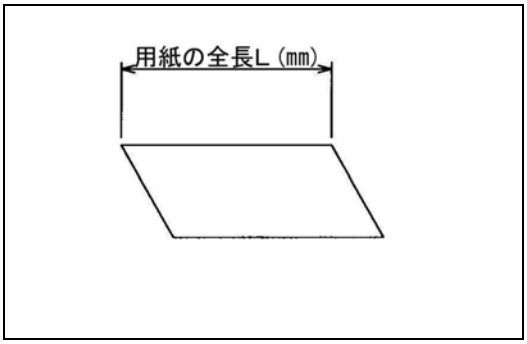
（単位　㎜）

	テーブル１	テーブル２
２　つ　折　り	原位置	１／２Ｌ
４　つ　折　り	１／２Ｌ	１／４Ｌ
片　袖　折　り	３／４Ｌ	１／４Ｌ
内３つ折り	１／３Ｌ	１／３Ｌ
外３つ折り	２／３Ｌ	１／３Ｌ
観　音　折　り	１／４Ｌ	１／２Ｌ

用紙の長さと、テーブル１・２のストッパー位置の関係です。定形折り以外の折形の参考にしてください。

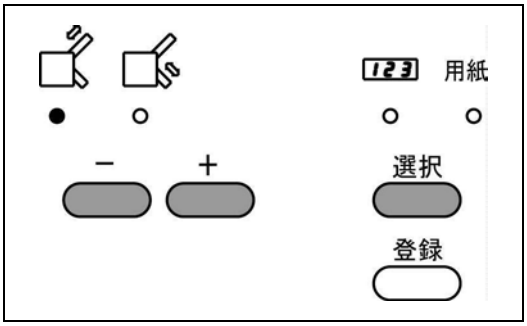
例）３００mmの用紙を外３つ折りにする場合。
テーブル１＝３００×（２／３Ｌ）＝２００mm
テーブル２＝３００×（１／３Ｌ）＝１００mm

（１）用紙の長さを測ります。

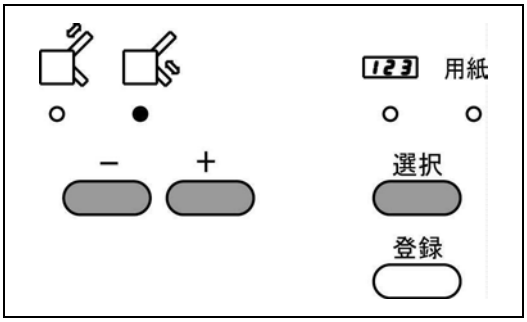


（２）ストッパーを移動させます。

テーブル１の場合
選択キーを押して、テーブル１ストッパー移動モードを選択します。
＋/－キーを押して希望の位置へストッパーを移動します。
（ストッパーの位置がカウンタに表示されます）



テーブル２の場合
選択キーを押して、テーブル２ストッパー移動モードを選択します。
＋/－キーを押して希望の位置へストッパーを移動します。
（ストッパーの位置がカウンタに表示されます）



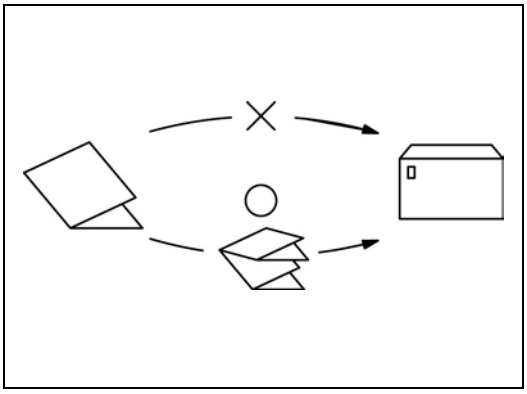
※ストッパー微調整ツマミでストッパーを移動させて、その折形を記憶させたい場合
→１７ページ「５．５　記憶」参照

（３）試し折り後、連続折りをします。
→１３ページ参照

５．３　クロス折り

・クロス折りとは、２つ折りした用紙をさらに４つ折りや内３つ折りなどにすることをいいます。

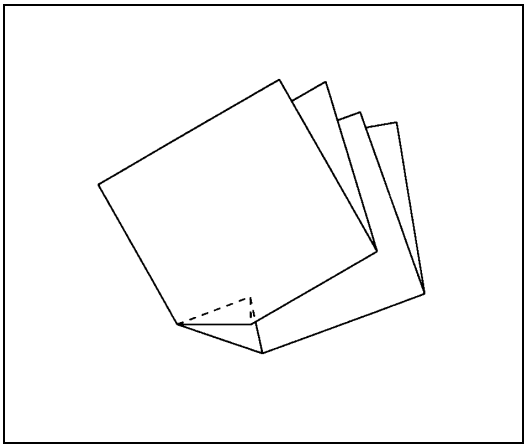
・Ａ３の用紙を４つ折りしただけでは封筒に入らない場合などにクロス折りをします。



注意！

クロス折りに使用できる用紙は諸条件によって変動します。

- **用紙種類**
- **用紙サイズ**
- **縦目・横目**
- **温度・湿度**
- **印刷状態**



通常の折りより横ズレが大きくなったり、折った角が内側に折れる現象が起こる場合がありますが機械の故障ではありません。

注意！

- **２つ折りした折り目を手でよくしごきます。**
- **用紙は少な目に積みます。（３０枚以下）**
- **補助用紙ガイドは、用紙ガイドにあたらないように目盛のシールより後ろ側に置きます。**

（１）２つ折りにした用紙を給紙テーブルにのせ、用紙ガイドを密着させて固定します。
（２）左右の給紙補助ローラーのネジをプラスドライバーでゆるめて、用紙の両端をおさえる位置にセットします。
（３）補助用紙ガイド右左を用紙サイズの目盛りの位置に置き、先端のベアリングが用紙のふくらみをおさえるようにおきます。

注意！

給紙補助ローラーの材質は樹脂のため、ネジを締める際は締め過ぎて給紙補助ローラーが割れないよう十分注意してください。

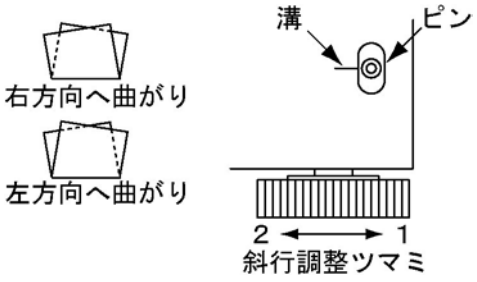
５．４　調整

５．４．１　斜行調整

用紙裁断時の曲がり、その他の要因で折り合わせが曲がっている場合は、斜行調整ツマミで曲がりを修整することができます。（基本位置はピンが溝のある中央にあります）

排紙された状態のままみて、用紙の下面が右へ曲がった場合は斜行調整ツマミを右方向１へ、左へ曲がった場合は左方向２へまわしてください。
※万が一斜行の曲がりが発生した際は、まず用紙ガイドと用紙の間に隙間がないか確認してください。

注意！
- **２つ折り以外の場合はテーブル１で折られた面を下にして斜行調整してください。**
- **用紙をかえた時は、斜行を調整し直してください。**
- **作業後は斜行調整ツマミを基本位置に戻してください。**



５．４．２　微調整

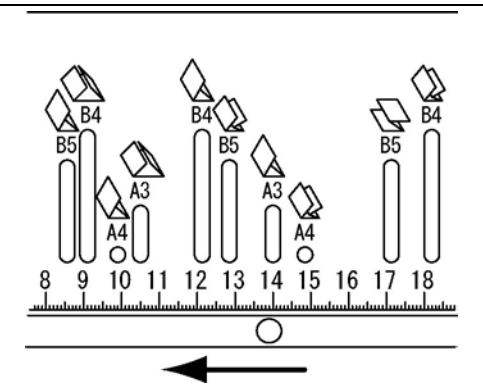
ストッパー微調整ツマミでストッパーを移動させます。

ポイント！
微調整をした直後　→　テストキーを使用
通常　→　スタートキーを使用

微調整をした直後にスタートキーを押すと、微調整を無効にできます。

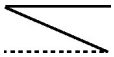
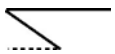
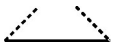
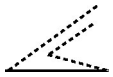
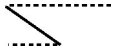
例：内３つ折りで内側に折れる辺を１㎜短くする場合

（１）テーブル１の指針を１㎜左に移動します。
（１目盛が１㎜です）
（２）テーブル１ストッパー微調整ツマミを左にまわします。



テーブル１・２の微調整

※折り形の図は排紙テーブルに排紙された用紙を操作パネル側から見た状態で表しています。

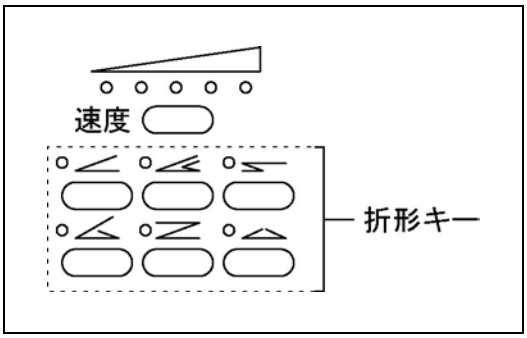
	折り形	2 つ折	観音折	内 3 つ折	外 3 つ折	4 つ折	片袖折
テーブル１	紙折りの状態 (実線の長さをテーブル１で調整します)	テーブル１を通りません					
	実線部が長い場合		短	短	短	短	短
	実線部が短い場合		長	長	長	長	長
テーブル２	紙折りの状態 (実線の長さをテーブル２で調整します)						
	実線部が長い場合	短	短	短	短	短	短
	実線部が短い場合	長	長	長	長	長	長

実線部は本体折りテーブルの赤線で表示されています。

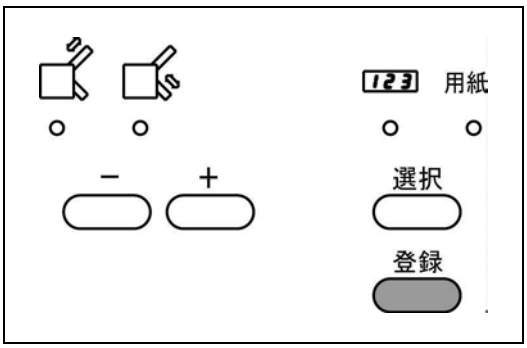
５．５　記憶

５．５．１　記憶

・折った結果を折形キーに記憶することができます。
・電源を切ると機械は初期化しますので、微調整後は記憶をしてください。記憶すると初期化してもまた呼び出すことができます。
・ひとつの折形キーに対して規格用紙 6 種類分の記憶容量があります。（記憶容量：６×６＝３６）
・記憶内容はテーブル１・２ストッパー位置、折り速度です。



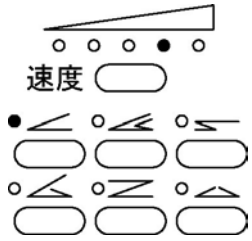
（１）希望の折りができるように、あらかじめ準備しておきます。
（２）記憶を割り付ける折形キーを選択します。
登録キーを押し続け、アラームが１回鳴ったらすぐ離します。
（３）記憶したキーはランプが点滅します。
（４）記憶を呼び出すときは、記憶しておいたキーを選択してからテストキー又はスタート/ストップキーを押します。



例）

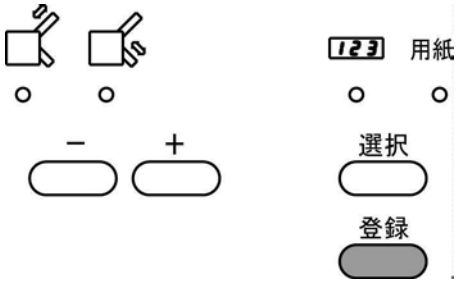
＜Ｂ４　２つ折り微調整登録＞

Ｂ４サイズ２つ折り微調整済みの状態で
（２つ折りキーランプ点灯状態）



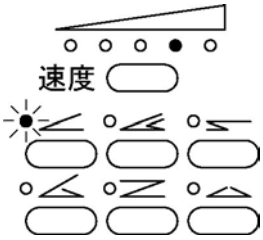
↓

登録キーを長めに押します。



↓

２つ折りキーが点灯から点滅に変わります。



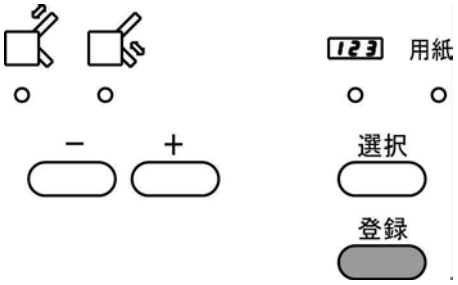
登録完了

＜Ａ４内３つ変形折り登録＞

Ａ４内３つ変形折りを調整済みの状態で
使用しない折形キーを押します。
（ここでは観音折りを選び、観音折りキーランプ点灯状態）

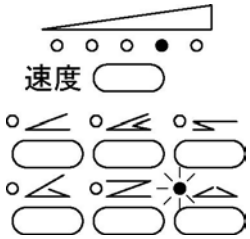
↓

登録キーを長めに押します。



↓

記憶１キーが点灯から点滅に変わります。



登録完了

※この場合、Ａ４サイズの観音折りキーは変形折りが登録されていますのでＡ４サイズの観音折りはできなくなっています。しかし、記憶解除（１９ページ５．５．２を参照）をすることによりメーカー出荷時に戻ります。

５．５．２　記憶解除

キーの記憶を解除します。

ポイント！

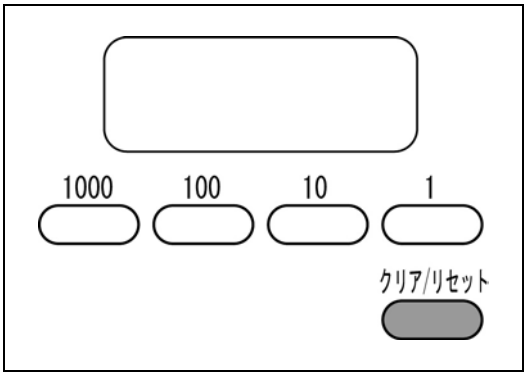
メーカー設定の定形折りができるようになります。

（1）記憶解除するキーを選択します。

ポイント！

記憶しているキーは、ランプが点滅します。

（2）クリア/リセットキーを押し続けて、アラームが１回鳴ったらすぐ離します。
記憶解除したキーはランプが点滅から点灯に変わります。



５．５．３　全記憶解除

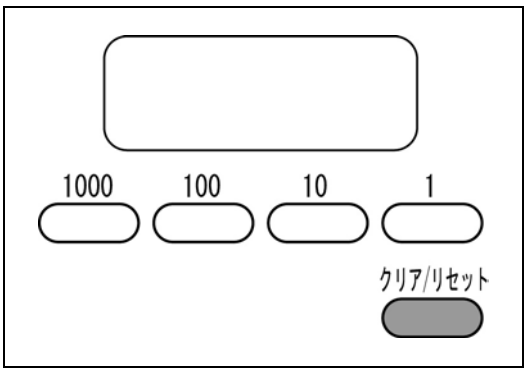
すべてのキーの記憶を解除します。

ポイント！

メーカー設定の定形折りができるようになります。

（1）クリア/リセットキーを押し続けて、アラームが 2 回鳴ったらすぐ離します。

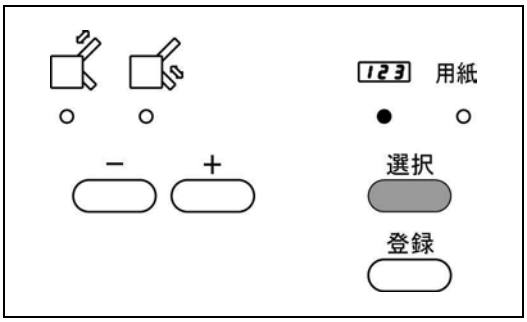
（2）記憶解除したキーはランプが点滅から点灯に変わります。



５．６　カウンタ

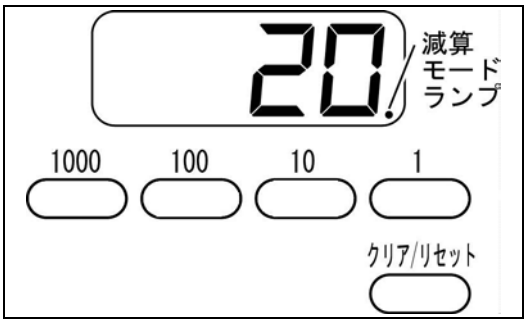
１枚折るごとに、カウンタが－１します。

（1）選択キーを押して、カウンタ入力モードを選択します
カウンタ入力モードランプが点灯します。



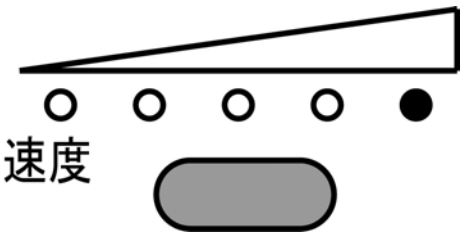
（2）希望の枚数を数字キーで入力します。
（ここでは２０枚とします。）
減算モードランプが点灯します。

・加算モードにするには、クリア／リセットキーを押せば減算モードランプが消灯し、加算モードになります。



５．７　速度調整

次の場合に速度調整キーで速度を調整してみてください。
左のランプへいくほど遅くなり、右のランプへいくほど速くなります。
・更紙などやわらかい用紙でシワが出たり、斜行が出る場合は遅くしてください。
・動作音を小さくしたい場合は遅くしてください。
・厚口の用紙で紙詰まりが発生する場合は速くしてください。



注意！

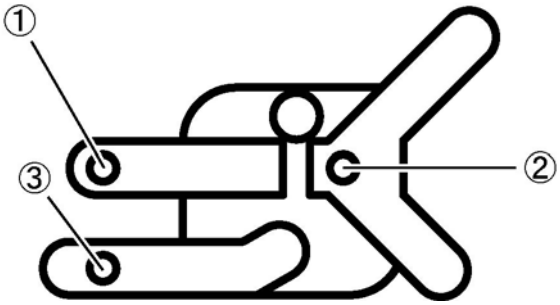
速度を変化させた後は、微調整が必要になります。

→１６ページ**「５．４．２　微調整」**参照

５．８　点検ランプ

機械に異常があると、ランプが点滅します。

場所	意味	対策
①	用紙がない、用紙が浮いている	・用紙を追加する、用紙を積み直す
	安全カバーが開いている	・安全カバーを閉じる
②	給紙スリップ	・２３ページ**「７．１トラブル内容と処置」**参照
	紙詰まり	・用紙を取り除く
	ストッパー微調整ツマミがまわらない	・テーブル１・２のセット確認 ・テーブル１・２ソケットの差し込み確認 ・微調整ツマミをストッパーが中央方向にくるように４、５回転してから電源を入れる
	給紙フォトセンサーが汚れている	・給紙フォトセンサーを清掃する ２１ページ**「６．４給紙・排紙フォトセンサーの清掃について」**参照
③	排紙テーブルがいっぱい	・用紙を取り除く
	機械内部に用紙が詰まっている	・用紙を取り除く ・排紙ローラーの位置をかえてみる
	排紙フォトセンサーが汚れている	・排紙フォトセンサーを清掃する ２１ページ**「６．４給紙・排紙フォトセンサーの清掃について」**参照



６．　保守・点検・消耗品

６．１　点検・お手入れ時の注意事項

⚠ 警　告	
	点検・手入れ時には電源プラグをコンセントから抜いてください。 けが・感電の恐れがあります。

６．２　日常のお手入れ

・折りローラーに紙粉やホコリがたまると紙折りに支障をきたす場合があるので、使用しない時は機械カバーをかけてください。
・折りローラーに紙粉及び印刷物のインクが付着するとシワ、紙詰まり等トラブルの原因になるので定期的にゴムローラー専用クリーナー（カタログ№は裏表紙参照）と布切れを用いて清掃してください。
・折りローラーは１本ずつ、専用クリーナーを浸した布切れで力いっぱいこすり、何も汚れが取れなくなるまで拭いてください。
・紙粉及び印刷物のインク等が給紙ゴムローラーや用紙セパレーターに付着すると給紙性能が低下し、紙詰まりやスリップの原因になるのでクリーニングキット(カタログ№は裏表紙参照)を用いて清掃をしてください。
・外装部の汚れはアルコール又は清掃用クリーナーを使用してください。
　溶剤系の洗浄液は変色の原因になるので使用しないでください。

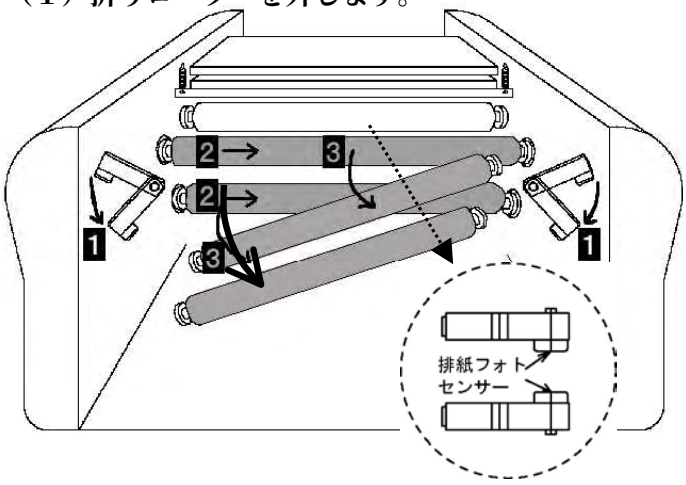
６．３　消耗品について

製品に使用されている給紙ゴムローラー、ブレーキゴム、用紙セパレーターは消耗品です。
交換が必要な場合は、お買い求め販売店までご連絡ください。

６．４　折りローラーの脱着･給紙･排紙フォトセンサーの清掃について

＜折りローラーの脱着・排紙フォトセンサーの清掃＞
工具を使用しないで２本の折りローラーを脱着することができます。
折りローラーや排紙フォトセンサーの清掃が簡単になります。
残りの２本のローラーは、脱着できないので少しずつまわしながら清掃します。
用紙を１枚しか給紙しない場合は、排紙フォトセンサーの矢印の面に付着した紙粉をやわらかい綿棒で取除いてください。

（１）折りローラーを外します。



1～3の順に上のローラーから外し、次に下のローラーを外します。

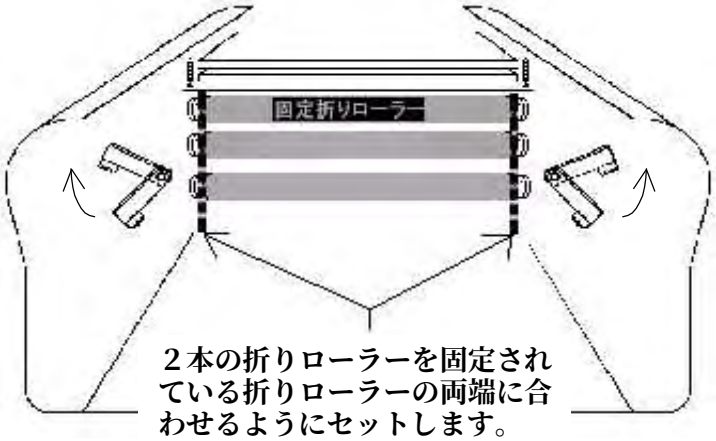
1 ローラー脱着レバーを「ローラー解除位置」側に下げます。

2 ローラーを右にずらします。

（左穴から軸が外れます）

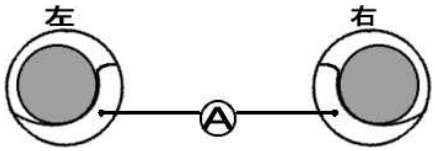
3 右穴からローラーを外します。

（２）折りローラーを着けます。



２本の折りローラーを固定されている折りローラーの両端に合わせるようにセットします。

外した時とは逆の要領で下のローラーから着けていきます。
①ローラーを右奥まで差し込みます。
②ローラーを軽く持ち上げながら左にスライドさせます。
※左右のローラー軸がＡの部分に引っかからないよう注意してください。

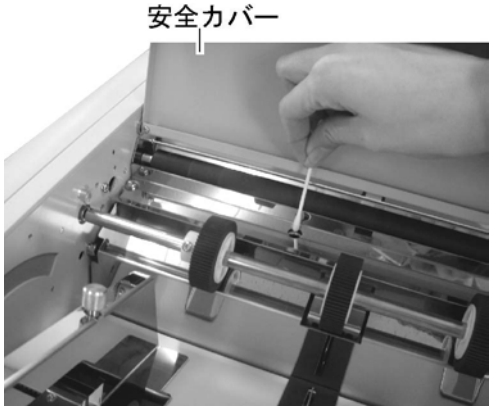


上図のようにローラーの軸がＡに乗るようになります。
③ローラー脱着レバーを「使用時」側に上げます。

注意！
確実に折りローラーをはめないと故障の原因になります。はめられない場合は裏表紙に掲載されているところまでご連絡ください。

排紙フォトセンサー

＜給紙フォトセンサーの清掃＞



安全カバーを開き、給紙フォトセンサーの表面（黒い樹脂面）を先端を水で濡らした綿棒等で拭いてください。

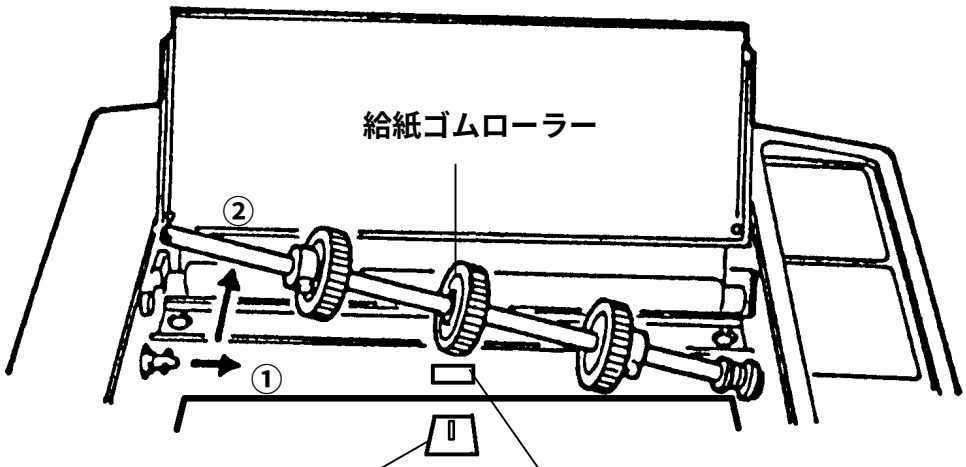
注意！

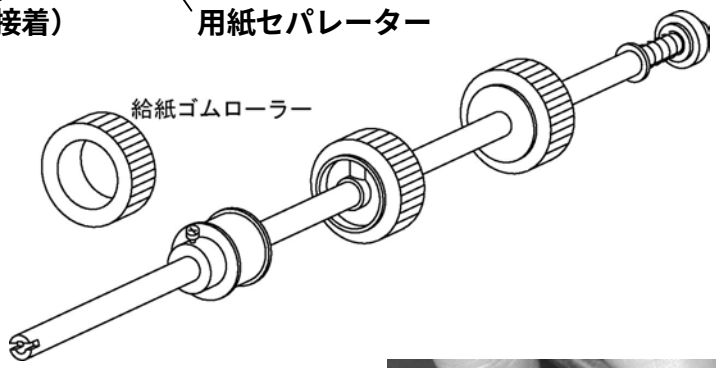
綿棒で清掃する際に、糸くずを残さないようにしてください。給紙しないことや、あるいは１枚だけ給紙してから給紙エラー（点検ランプ②が点滅）になる場合があります。

→２０ページ「５．８　点検ランプ」参照

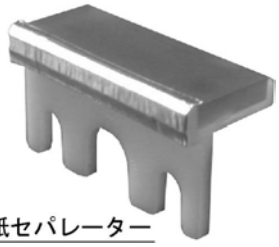
６．５　用紙セパレーター・給紙ゴムローラー・ブレーキゴムの脱着について

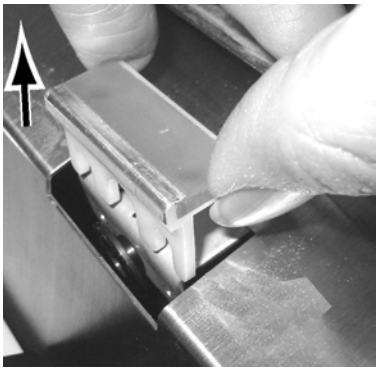
給紙ゴムローラーと用紙セパレーターを交換する際は、下記の要領で取外しを行ってください。





用紙セパレーター（樹脂付）の両端を持ち、引き抜きます。
取付は逆の要領で行います。





上記部品はご購入の販売店へご発注ください。

7．　トラブル時の処置

7．1　トラブルの内容と処置

現　象	原　因	処　置	参照
折りずれが生じる	微調整がされていない	微調整ツマミで折りずれ修整	5.4　調整
	途中で処理速度を変えた	処理速度は一定にする	
	折りローラーが汚れている	折りローラー清掃	6.　保守・点検・消耗品
	用紙ガイドのセットが曲がっていて固定されている又は用紙に密着していない	用紙ガイドを用紙に密着させる	
	給紙テーブルが曲がっている	斜行調整ツマミで給紙テーブルをまっすぐにする	5.4.1　斜行調整
	用紙の裁断が曲がっている	斜行調整ツマミで調整する	
	更紙など薄口で反っている用紙を使用している	用紙交換または（可能であれば）裏返す	
紙詰まりが多発する	折りローラーが汚れている	折りローラー清掃	6.　保守・点検・消耗品
	折りローラーが正しくセットされていない	折りローラーを正しくセットする	
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
	厚口の用紙を速度を遅くして使用している	速度を速くする	5.8　速度調整
	テーブル１・２が正しくセットされていない	テーブル１・２を正しくセットする	4.1　付属品を取付ける
	用紙通過部に紙片が詰まっている	各部点検し紙片を取り除く	
	給紙ローラーが汚れている	給紙ローラー清掃	6.　保守・点検・消耗品
	静電気の異常発生	市販の静電気除去スプレーを吹きかける	
スタートキーを押しても給紙しない	給紙テーブル上に用紙がない、少ない	給紙テーブル上に用紙をのせる	
	安全カバーが開いている	安全カバーを閉じる	
	排紙フォトセンサーが汚れている	排紙フォトセンサー清掃	6.4 折りﾛｰﾗｰの脱着･排紙ﾌｫﾄｾﾝｻｰの清掃について
シワが生じる	折りローラーに紙片が巻きついている	テーブル１・２を外して折りローラーの紙片を取り除く	
	折りローラーが汚れている	折りローラー清掃	6.　保守・点検・消耗品
	横目の用紙及びコシの弱い用紙を使用している	処理速度を遅くする	5.8　速度調整
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
	薄口で反っている用紙を使用している	用紙交換または（可能であれば）裏返す	

電源スイッチをＯＮしても電源が入らない	電源コードのプラグが外れている	電源コードのプラグを確実に差し込む	4.1　付属品を取付ける
	ブレーカが働いている	紙詰まり等の原因を取除いてからブレーカボタンを押す	2.1　外観
ストッパーが移動しない	ストッパーが原点方向または長い方向に行き過ぎてロックしている	微調整ツマミをストッパーが中央方向にくるように4、5回転する	5.7　点検ランプ
	テーブル１・２のソケットが外れている	ソケットを確実に差し込む	4.1　付属品を取付ける
	テーブル１・２内で紙詰まり	テーブル１・２を外し紙を取り除く	
排紙ジャムが多発する	排紙ローラーの位置が用紙サイズに適した位置にセットされていない	排紙ローラーを最適な位置にセットする	
	排紙満杯	用紙を取り除く	
給紙スリップが多発する	給紙ローラーが摩耗している	給紙ローラー交換	
	給紙ローラーに紙粉やインクの汚れがある	給紙ローラー清掃	6.　保守・点検・消耗品
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
	用紙セパレーターが汚れている	用紙セパレーター清掃	6.　保守・点検・消耗品
重送が多発する	用紙セパレーターが摩耗している	用紙セパレーター交換	6.　保守・点検・消耗品
	用紙セパレーターが汚れている	用紙セパレーター清掃	6.　保守・点検・消耗品
	印刷済用紙が密着している	用紙をよくさばいて再セット	
	仕様外の用紙を使用している	仕様内の用紙を使用する	
紙折れが生じる	用紙のカールが大きすぎる	カールを矯正	
	微調整が正しくセットされていない	微調整を正しくセット	5.4.2　微調整
	テーブル１・２が正しくセットされていない	テーブル１・２を正しくセットする	4.1　付属品を取付ける

仕様範囲内の紙質であっても、一度折った紙や印刷機、コピー、プリンター等による熱によってカールしている状態・波を打っている状態などの紙では、うまく折れない場合があります

７．２　故障の場合

修理が必要な故障の場合は、販売店、当社営業担当者またはウチダテクノまでご連絡ください。

８．　移設または廃棄するとき

８．１　移設

８．１．１　旧設置場所からの撤去作業

・電源スイッチを切る。
・電源プラグをコンセントから抜きとる。
・テーブル１・２を外す。
・補助テーブルをしまう。
・排紙テーブルをしまう。

８．１．２　運搬

・取り外した部品や付属品、取扱説明書を一緒に運ぶ。
・強い振動や衝撃を与えないようにする。
・保護手袋をし、２人で底面４隅をしっかり持って運搬する。

８．１．３　移設先での設置

新設の場所と同様、すべての作業を行ってください。

８．２　廃棄

廃棄する際は、各地方自治体の政令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど、適切な処理をしてください。

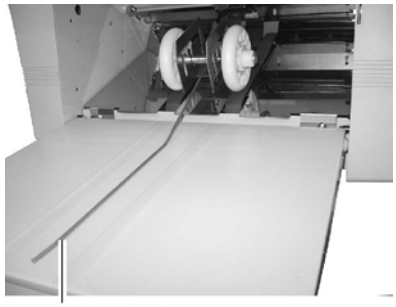
９．　製品仕様

９．１　仕様

用紙寸法	Ｂ７（９１×１２８㎜）～Ａ３（２９７×４３２㎜） ※Ｂ７は２つ折りのみ、Ｂ６は観音折り不可
用紙質量	４５～１０５g／㎡（２つ折りのみ１５２g／㎡） ４０～９０kg（２つ折りのみ１３５kg） （目安：コピー用紙は５５kg）
紙質	更紙・上質紙・上質孔版紙・中質紙 上記の紙質であっても、一度折った紙や印刷機、コピー、プリンター等による熱によってカールしている状態・波を打っている状態などの紙では、うまく折れない場合があります
折形	２つ折り・４つ折り・片袖折り・内３つ折り・外３つ折り・観音折り・その他変形折り・２回折りによるクロス折り
折り寸法	最大折り寸法 テーブル１：３３０㎜（４つ折り・片袖折り・外３つ折り） テーブル２：２２４㎜（２つ折り・内３つ折り・観音折り）
	最小折り寸法 テーブル１：５０㎜（内３つ折り・観音折り） テーブル２：４０㎜（２つ折り・４つ折り・片袖折り・外３つ折り）
給紙方式	３輪式サバキ方式
給紙積載量	５００枚（上質紙６４g／㎡・上質紙５５Kg）
処理速度	３３００～１００８０枚／時（Ａ４　２つ折り時） ２６４０～　８６４０枚／時（Ｂ４　２つ折り時）
操作方式	デジタルキー・自動設定（マイコン内蔵による）
付加機能	斜行調整・紙詰まり検知・４桁カウンタ（加算・減算モード・オートリピート付）・用紙サイズの自動検出（Ａ３，Ｂ４，Ａ４，Ｂ５，Ａ５，Ｂ６）・クロス折り用補助用紙ガイド付 微調整の記憶３６通り（６種類の用紙サイズ×６種類の折形） オプションでミシン目ユニット・スコーリングユニット・手差しユニット装着可能
消費電力	７５W
使用電源	１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
機械寸法	Ｗ１０５０×Ｄ５３０×Ｈ５１２㎜（使用時） Ｗ６６０×Ｄ５３０×Ｈ５１２㎜（収納時）
機械質量	３０．７kg
オプション	ミシン目ユニット・スコーリングユニット・手差しユニット・排紙ワイヤ

本機の仕様及び外観は改良のため、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

９．２　オプションについて

部品	装着状態
 「ミシン目ユニット」 ミシン目を入れることができます 「スコーリングユニット」 折り目を入れることができます	 ミシン目ユニット （スコーリングユニット も同じ外観）
 「手差しユニット」 手差し給紙により同時に数枚（３枚まで）折ることができます	 手差しユニット
 「排紙ワイヤ」 排紙の揃えを良くします。	 排紙ワイヤ

メモ

取扱説明書

この「取扱説明書」はいつでもお読みになれるよう保管場所を決めて、大切に保管してください。
また、この「取扱説明書」を汚されたり、紛失された場合は、販売店か当社営業担当者、又はお客様相談センターまでご連絡して、内容を確認のうえ請求してください。
この製品を譲渡される場合は、次の所有者にこの説明書を必ず添付して譲渡してください。

●故障の場合

修理が必要な故障の場合は、販売店または当社営業担当者及び以下のウチダテクノまでご連絡ください。

■株式会社ウチダテクノ

部門・部課名	〒	所在地	TEL	FAX
東京	116-0011	東京都荒川区西尾久 4-25-3　2F	(03)5901-2171	(03)3894-2305
大阪	540-8520	大阪市中央区和泉町 2-2-2 ㈱内田洋行内 3F	(06)6920-2446	(06)6920-2498
札幌	060-0041	北海道札幌市中央区北 1 条東 4-1-1 サッポロファクトリー㈱内田洋行内 1F	(011)241-2825	(011)241-2827
福岡	812-0008	福岡県福岡市博多区東光 2-10-11	(092)476-5011	(092)476-5009
名古屋	460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内 2-4-20	(052)220-5270	(052)222-7640

●商品に関するお問合わせ先

お客様相談センター　フリーダイヤル　0120-077-266

●クリーナー

注文番号:1-141-0074　ゴムローラー専用クリーナー